

古事記の天皇の「歳」は年齢のことではなかった

-「歳」という漢字についての考察-

水野 健一

R5.4.12

はじめに

記紀にある天皇の年齢の記述はとても数字が大きく、人並み以上に長生きしていると言われています。

先人は二倍歴等を考え出しなんとか解説してこようとしてきました。

私はそれらとは別の切り口で解決してみたいと思います。

使用するのは古事記です。

日本書紀は対外的な体裁を整えるために、挿入、修正が多く見受けられるので今回は素の状態に近い古事記を利用します。

1. 古事記の原文では

古事記の歳についての記述を原文から抜粋してきました。

神武 御年壹佰参拾漆歳
綏靖 御年肆拾伍歳
安寧 御年肆拾玖歳
懿徳 御年肆拾伍歳
孝昭 御年玖拾参歳
孝安 御年壹佰式拾参歳
孝霊 御年壹佰陸歳
孝元 御年伍拾漆歳
開化 御年陸拾参歳
崇神 御歳壹佰陸拾捌歳
垂仁 御年壹佰伍拾参歳
景行 御年壹佰参拾漆歳
成務 御年玖拾伍歳
仲哀 御年伍拾式歳
応神 御年壹佰参拾歳
仁徳 御年捌拾参歳
履中 御年陸拾肆歳

反正 御年陸拾歳
允恭 御年漆拾捌歳
安康
雄略 御年壹佰貳拾肆歳
清寧
顕宗 御年參拾捌歳 治天下捌歳
仁賢
武烈 治天下捌歳也
繼体 御年肆拾參歳
安閑
宣化
欽明
敏達 治天下壹拾肆歳
用明 治天下參歳
崇峻 治天下肆歳
推古 治天下參拾漆歳

途中、歳についての記述がない天皇もありますが、これで全てです。

まずは記述方法が二種類あることがわかると思います。

御年〇〇歳、と 治天下〇〇歳 です。

古事記には推古天皇の在位年数と亡くなった年月日の記述はあるのですが、年齢の記述はありません。編纂時からみてそれほど古くない推古天皇の歳はわからないのに、それよりずっと昔の天皇の歳がわかるのは少し疑わしいです。即位してからは公式行事等もあり記録も残しやすいでしょうが、現代のようにいつ生まれた等の情報は残りづらいのではないかと推測します。

よって神武等、昔の天皇に使われている「歳」とは年齢を表しているとの考えをやめました。記録の中でしか知らない天皇の記述の中に「歳」とあったので古事記の編纂者は天皇の年齢のことだと思い込んでしまったのではないかと。

では何のことかという「歳時」のことを言っているのではないかと思いつきました。

具体的には天皇が執り行う祭祀のことです。例をあげると新年の祭りや祈念祭、神嘗祭、新嘗祭等です。

「歳」として数えてあるのはその天皇が即位してから執り行った祭の回数だということです。

そう考えると一年に何回も祭りをを行うのですから年齢はずっと少なくなります。

2.「歳」という漢字について

白川静氏の新訂字統(2004)によると、「歳」という漢字は甲骨文までさかのぼると「戌(鉞まさかり)」だけの形だったようです。

これは神にささげる犠牲(いけにえ)を割く戌の意味です。

その後、戌の刃部に「歩」を上下に分けて書く形となりました。

[書、洛誥]に、「王、新邑に在りて、烝して祭し歳するに、文王には騂牛一、武王にも騂牛一もてす」とあり、歳は祭名。

その犠牲として赤い毛色の騂牛が供せられており、歳はこの犠牲を用いる祭儀である。

これを見るときもともと「歳」とは犠牲を神にささげる儀式の意味のようです。

日本でも諏訪地方では鹿を生贄にする御頭祭があります。

神武以下の歴代天皇がそのような儀式を行っていたかはわかりませんが、古代には「歳」は神への祭祀という意味で使われていたと考えられます。

その後、大きな祭りは年一回執り行われるので四季のひとめぐりの意味に変わっていったようです。

ちなみに「年」という字ももともとは男性が頭に「禾」をかぶって農業の神をからだにやどらせ踊る姿を表して農業祭の意味だそうです。

祭祀が年一回なら神武の在位期間は百三十七年ということになりますが、新年の祭り、春の祭り、秋の祭り、臨時に行った祭り等を考えはじめると現実的な数値に落ち着いてくるように思います。

記録方法が少ない古代で、ある人物の生まれてからの年齢の記録が残るよりは、大勢の人が集まって行う公式行事の回数の記録が残されていると考える方が理にかなっているのではないのでしょうか。

3.歳によって在位期間はどのくらいだと推察できるか？

ここで顕宗天皇の 御年參拾捌歳 治天下捌歳 を考えてみましょう。

都合の良いことにここには両方の記述があります。

顕宗天皇は八年間天下を治めていましたが、その間に三十八回祭祀を行ったとします。

$38 \div 8 = 4.75$ 年に四回強です。毎年やる祭祀と臨時で行う祭祀を考慮すれば妥当な数字だと考えられそうです。

では基本的に年に四回の祭祀だと考えて神武の歳時にあてはめると、

$137 \div 4 = 34.25$

神武が王として天下を治めていたのは最長で約 34 年ということになります。必要に迫られて臨時で祭祀を行ったことがあったとするならもっと短くなります。

崇神も百六十八歳と一番多いですが、この時代は疫病も発生しそれを鎮めるために多くの祈祷が行われたとあるのでそれが原因だと考えられます。

4.おわりに

今まで我々は「歳」という漢字の意味を取り違え、古事記編纂者の思い込みにミスリードされ、古事記を訳した学者の訳に振り回され三重苦でした。

やはり古代史の研究は原文を見てみないことには真実から離れて行ってしまうようです。

天皇の年齢だと信じ込まれていたものが、実は祭祀の回数だったとなると年表の大幅な作り直しが必要だと思いますがそれによって真実にちかづくことができるのなら日本人にとって有用なことなのではないでしょうか。